

消 防 年 報

令和7年版

70

中津市消防本部

はじめに

この消防年報は、中津市消防本部の現勢と令和7年中の消防に関する諸般の事項を収録し、今後の消防行政運営上の参考資料に資するために編さんしたものです。

なお、統計については原則として暦年、予算関係については会計年度とし、表中に年月を明示したものについては、その時点での現況としています。

令和 8 年 5 月

中津市消防本部

目 次

I 地勢及び情勢

| | |
|--------------------|-----|
| 1. 管内の概況 | 1-1 |
| 2. 管内の人口、世帯数 | 1-2 |
| (1) 地区別の人口及び世帯数 | 1-2 |
| (2) 地区別の年齢区分 | 1-3 |
| (3) 人口の推移（地区別過去5年） | 1-3 |
| (4) 世帯の推移（地区別過去5年） | 1-3 |
| 3. 沿革 | 1-4 |
| 4. 歴代消防長 | 1-8 |

II 中津市の消防体制

| | |
|--------------------------|------|
| 1. 消防機関所在地 | 2-1 |
| 2. 消防本部組織構成図 | 2-2 |
| 3. 事務分掌 | 2-3 |
| 4. 出動区分表 | 2-5 |
| 5. 車両の配置状況一覧表 | 2-6 |
| 6. 主要機械器具の配置状況 | 2-7 |
| 7. 消防水利 | 2-9 |
| (1) 現有消防水利 | 2-9 |
| (2) 水利調査状況 | 2-9 |
| 8. 消防団の組織 | 2-10 |
| (1) 中津市消防団組織図 | 2-10 |
| (2) 消防団員の実員（方面団別） | 2-11 |
| (3) 年齢別消防団員数（方面団別） | 2-11 |
| (4) 方面団別実員の推移（過去5年） | 2-11 |
| (5) 消防団車両の配置状況 | 2-12 |
| (6) 消防団の通信機器・主要な機械器具配備状況 | 2-12 |

III 総務

| | |
|----------------------------|-----|
| 1. 予算概要 | 3-1 |
| (1) 一般会計予算と消防費（当初予算） | 3-1 |
| (2) 消防費予算額と人口、世帯当りの額（当初予算） | 3-1 |
| (3) 消防費決算・決算表（累計比較） | 3-1 |
| (4) 消防費人口・世帯等対比（累計比較） | 3-1 |
| 2. 消防職員 | 3-2 |
| (1) 職員の年齢構成 | 3-2 |
| (2) 職員の勤続年数 | 3-2 |
| (3) 職員定員及び実員（過去5年間の推移） | 3-2 |

| | |
|------------------|-----|
| (4) 職員の配置状況 | 3-3 |
| (5) 職員の資格・免許取得状況 | 3-4 |
| 3. 庁舎の現況 | 3-5 |
| 4. 相互応援協定締結状況 | 3-6 |

IV 予防・危険物

| | |
|-----------------------------|------|
| 1. 予防概要 | 4-1 |
| (1) 防火対象物の推移（過去5年） | 4-1 |
| (2) 防火対象物の現況（地区別） | 4-2 |
| (3) 防火対象物査察の実施状況（過去5年） | 4-3 |
| (4) 消防同意件数 | 4-4 |
| (5) 中高層建築物数 | 4-5 |
| (6) 消防用設備等点検結果報告書の届出が必要な対象物 | 4-6 |
| (7) 防火管理者選任を要する対象物 | 4-7 |
| (8) 各種届出事務処理状況 | 4-8 |
| 2. 危険物 | 4-9 |
| (1) 危険物施設数（地区別） | 4-9 |
| (2) 危険物施設の推移（過去5年） | 4-9 |
| (3) 危険物施設の査察実施数（過去5年） | 4-10 |
| (4) 危険物事務処理状況 | 4-10 |
| (5) 火薬類消費許可申請事務処理状況 | 4-11 |

V 災害救急統計

| | |
|--------------------------|-----|
| 1. 119番受信件数 | 5-1 |
| 2. 火災統計 | 5-2 |
| (1) 火災概要（火災損害・焼損面積・出火原因） | 5-2 |
| (2) 地区別の火災発生状況 | 5-3 |
| (3) 地区別の損害状況 | 5-3 |
| (4) 年次別火災統計（過去10年） | 5-4 |
| (5) 月別火災発生件数及び焼損状況 | 5-5 |
| (6) 出火原因 | 5-5 |
| (7) 時間帯別出火件数 | 5-6 |
| (8) 曜日別出火件数 | 5-6 |
| 3. 救急統計 | 5-7 |
| (1) 救急概要 | 5-7 |
| (2) 地区別出動件数 | 5-8 |
| (3) 出動件数と搬送人員（種別割合） | 5-8 |
| (4) 救急出動・搬送人員の推移（過去10年） | 5-8 |
| (5) 月別出動件数 | 5-9 |
| (6) 時間帯別出動件数 | 5-9 |

| | |
|--------------------|------|
| (7) 年齢区分別搬送人員 | 5-10 |
| (8) 傷病程度別搬送人員 | 5-10 |
| (9) 曜日別出動件数 | 5-11 |
| (10) 覚知別出動件数 | 5-11 |
| (11) 現場到着までの所要時間 | 5-12 |
| (12) 医療機関収容までの所要時間 | 5-12 |
| (13) 救急隊員が行った応急処置 | 5-13 |
| (14) 応急手当の普及啓発状況 | 5-13 |
| 4. 救助統計 | 5-14 |
| (1) 救助概要 | 5-14 |
| (2) 救助出動状況(過去5年) | 5-14 |
| (3) 月別出動件数 | 5-15 |
| (4) 地区別出動件数 | 5-15 |
| (5) 発生場所別の救助活動状況 | 5-16 |
| (6) 訓練等指導状況 | 5-16 |

I 地勢及び情勢

1. 管内の概況

中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面しています。

面積は491.38km²で、市域の約80%は山林原野が占め、山国川下流の平野部にまとまった農地が開け、中津地域を中核としています。北部は狭く、南部は西方に大きく張り出した形状を示し、西側に英彦山がそびえ地域を貫流する山国川の分水嶺となっています。

主要交通機関としては、JR日豊本線及び東九州自動車道、国道10号、国道213号が東西に走り、また国道212号が中津市を起点として南に延びて市域を縦断しています。

気候は瀬戸内海気候区に属し、年間を通じ比較的温暖です。令和7年の平野部における平均気温は17.1℃で、大分県のなかでも比較的気温の高い地域です。

中津市には気象庁の2つの観測所があり、年間の降水量は、中津観測所が1,000.5mm、耶馬溪観測所1,447.0mmで、山間部は平野部に比べて降水量が多くなっています。



| 人口(人) | 性別 | | 世帯数(世帯) | 面積(km ²) |
|--------|--------|--------|---------|----------------------|
| | 男 | 女 | | |
| 80,794 | 39,867 | 40,927 | 41,904 | 491.38 |

2. 管内の人口、世帯数

(1) 地区別の人口及び世帯数

(令和8年4月1日現在)

| 地区別 | 人 口 (人) | | | | 世帯数 (世帯) |
|---------|---------|---------|--------|-------------|-------------|
| | 男 | 女 | 計 | 地区別 人口割合 | |
| 中津地区 | 34,385 | 34,841 | 69,226 | (85.7%) | 36,079 |
| 三光地区 | 2,239 | 2,514 | 4,753 | (5.9%) | 2,200 |
| 本耶馬溪地区 | 1,054 | 1,137 | 2,191 | (2.7%) | 1,193 |
| 耶馬溪地区 | 1,342 | 1,519 | 2,861 | (3.5%) | 1,509 |
| 山国地区 | 847 | 916 | 1,763 | (2.2%) | 923 |
| 計 | 39,867 | 40,927 | 80,794 | (100%) | 41,904 |
| (男女別割合) | (49.3%) | (50.7%) | | | |



(2) 地区別の年齢区分

(令和8年4月1日現在)

| 地区別 | 年 齢 区 分 | | | | | | 計 (人) |
|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|----------|
| | 14歳以下 | 割合 (%) | 15歳~64歳 | 割合 (%) | 65歳以上 | 割合 (%) | |
| 中津地区 | 8,582 | 10.6 | 40,813 | 50.5 | 19,831 | 24.5 | 69,226 |
| 三光地区 | 612 | 0.8 | 2,297 | 2.8 | 1,844 | 2.3 | 4,753 |
| 本耶馬溪地区 | 155 | 0.2 | 882 | 1.1 | 1,154 | 1.4 | 2,191 |
| 耶馬溪地区 | 128 | 0.2 | 1,135 | 1.4 | 1,598 | 2.0 | 2,861 |
| 山国地区 | 103 | 0.1 | 639 | 0.8 | 1,021 | 1.3 | 1,763 |
| 計(人) | 9,580 | | 45,766 | | 25,448 | | 80,794 |
| (年齢区分別割合) | (11.9%) | | (56.6%) | | (31.5%) | | (100%) |

(3) 人口の推移(地区別過去5年)

(表中の数値は、各年度の4月1日現在の数)

| 地区別 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中津地区 | 70,311 | 69,750 | 70,271 | 69,499 | 69,223 |
| 三光地区 | 5,055 | 4,989 | 4,936 | 4,893 | 4,862 |
| 本耶馬溪地区 | 2,608 | 2,543 | 2,452 | 2,384 | 2,275 |
| 耶馬溪地区 | 3,422 | 3,292 | 3,197 | 3,084 | 2,967 |
| 山国地区 | 2,121 | 2,052 | 1,961 | 1,900 | 1,811 |
| 計(人) | 83,517 | 82,626 | 82,817 | 81,760 | 81,138 |

(4) 世帯の推移(地区別過去5年)

(表中の数値は、各年度の4月1日現在の数)

| 地区別 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中津地区 | 34,244 | 34,201 | 35,282 | 35,175 | 35,533 |
| 三光地区 | 2,224 | 2,221 | 2,217 | 2,224 | 2,231 |
| 本耶馬溪地区 | 1,298 | 1,285 | 1,259 | 1,259 | 1,226 |
| 耶馬溪地区 | 1,675 | 1,636 | 1,609 | 1,569 | 1,552 |
| 山国地区 | 1,011 | 991 | 964 | 958 | 931 |
| 計(世帯) | 40,452 | 40,334 | 41,331 | 41,185 | 41,473 |

3. 沿革

| | |
|---|--|
| 昭和 12 年 4 月 | 中津市夜間常備消防部発足実動(普通ポンプ車…1台、部員…11人) |
| 昭和 16 年 10 月 | 大暴風雨により北門橋、小祝橋流失 |
| 昭和 17 年 9 月 | 風水害により米山新開堤防決壊 |
| 昭和 18 年 4 月 11 月 | 中津市常備消防部発足実動(普通ポンプ車…1台、部員…18人) 耶馬溪羅漢寺本堂火災 |
| 昭和 19 年 9 月 | 大豪雨による被害 (山国川が大洪水となるなど、旧市内全般家屋浸水など被害を受け、小祝橋再流失) |
| 昭和 25 年 9 月 13 日 | キジア台風襲来 (市内海岸沿い地域の堤防決壊、田畑の冠水など甚大な被害を及ぼす。罹災者約3,600名) |
| 昭和 25 年 10 月 14 日 | ルース台風襲来 (海岸堤防19ヵ所決壊、冠水田畑、流失田畑、計1,263町歩被害を及ぼす。罹災者9,396名。) |
| 昭和 27 年 4 月 | 中津市消防本部・消防署発足(普通ポンプ車…2台、職員…18人) |
| 昭和 28 年 6 月 24 日 9 月 13 日 | 中津市豪雨水害 (市内河川が全て氾濫し出水、道路や橋梁、堤防、各地に被害が発生、罹災者6604名) 台風12号襲来(海岸堤防11ヵ所決壊、住宅被害396戸、罹災者1,946人) |
| 昭和 31 年 9 月 9 日 | 台風12号襲来 (台風襲来の余波により市内永添地区で火災発生、住宅及び納屋など計17棟が全焼) |
| 昭和 32 年 12 月 5 日 | 中津市消防本部新庁舎落成 |
| 昭和 33 年 2 月 27 日 | 日ノ出町火災(11棟焼損) |
| 昭和 40 年 3 月 12 日 | 和田区田尻の大火(住宅30棟全半焼) |
| 昭和 43 年 6 月 11 月 20 日 | 救急業務実動開始 緑ヶ丘中学校火災(本館木造瓦葺二階建て一棟全焼) |
| 昭和 44 年 4 月 | 隣接の豊前市・吉富町・新吉富町・大平村と応援協定を締結 |
| 昭和 48 年 7 月 | 隣接の三光村と応援協定を締結 |
| 昭和 49 年 7 月 | 中津市と下毛郡内3町1村との広域消防発足 |
| 昭和 50 年 4 月 1 日 | 中津下毛広域消防本部・消防署 耶馬溪出張所開設実働 (水槽付消防ポンプ自動車1台、普通ポンプ車1台、救急車1台、広報車1台、職員数20名) |
| 昭和 51 年 3 月 31 日 7 月 31 日 8 月 2 日 | 大分県常備消防相互応援協定締結 中津下毛広域消防本部・消防署新庁舎竣工 旧庁舎より新庁舎に移転実動開始 |
| 昭和 52 年 11 月 | 本署 スノーケル車配備 |
| 昭和 54 年 11 月 2 日 | 新博多町の大火災(新博多町2丁目商店街火災) (商店9店舗、無人住宅1棟の計1,500㎡が全焼) |
| 昭和 55 年 6 月 8 月 30 日 | 本署 指揮車更新 耶馬溪町集中豪雨 (耶馬溪町が105ミリの記録的集中豪雨により、総額1億3千6百万円の被害) |
| 昭和 56 年 3 月 4 月 | 中津下毛広域消防本部・消防署の敷地取得(5,527.73㎡) 中津下毛広域消防本部・耶馬溪出張所の敷地取得(999.87㎡) |
| 昭和 57 年 2 月 | 本署 救急1号車(日本損害保険協会より寄贈) |
| 昭和 58 年 3 月 | 耶馬溪出張所 広報車更新 |
| 昭和 59 年 2 月 8 月 12 月 | 本署 消防1号車(水槽付消防ポンプ自動車)更新 中津下毛広域消防本部・消防署の敷地拡張分取得(938.00㎡) 中津下毛広域消防本部・消防署の敷地拡張分取得(307.00㎡) |

| | | |
|---------|----------|---|
| 昭和 60 年 | 4 月 28 日 | 富士紡績(株)中津工場全焼 |
| | 11 月 | 耶馬溪出張所 消防1号車(水槽付消防ポンプ自動車)更新 |
| | 11 月 | 火の用心号(日本防火協会より寄贈) |
| 昭和 61 年 | 8 月 | 耶馬溪出張所 救急車更新 |
| 昭和 62 年 | 3 月 | 人員搬送車(国際ソロプチミスト中津より寄贈) |
| | 3 月 | 消防緊急情報システム設置 |
| | 3 月 | 訓練塔新設・竣工 |
| 昭和 63 年 | 2 月 | 本署 救助工作車配備 |
| | 2 月 | 桧原山無線中継局開設 |
| | 3 月 | 本署 救急車(日本損害保険協会より寄贈) |
| | 12 月 | 耶馬溪出張所 消防2号車(ポンプ車)更新 |
| 平成 元年 | 2 月 | 本署 化学車更新 |
| | 3 月 | 本署 車庫及び屋内訓練場増築 |
| | 5 月 | 山国無線中継局開設 |
| | 12 月 | 本署 消防3号車(ポンプ車)更新 |
| 平成 2 年 | 2 月 | 救急車寄贈(日本消防協会) |
| 平成 3 年 | 3 月 | 本署 事務連絡車配備 |
| | 3 月 | 中津下毛広域消防本部・消防署の敷地取得(515.00㎡) |
| | 12 月 | 本署 消防2号車(ポンプ車)更新 |
| | 12 月 3 日 | 三光タイヤ火災(三光上秣にて古タイヤ6万本が燃える、翌年3月11日鎮火) |
| 平成 4 年 | 4 月 | 中津下毛広域消防本部・耶馬溪出張所の敷地取得(1,455.00㎡) |
| | 8 月 | 本署 指揮車更新 |
| | 9 月 | 耶馬溪出張所 救急車更新 |
| 平成 6 年 | 2 月 | 本署 梯子車配備(35m) |
| | 2 月 | 耶馬溪出張所 車庫増築(264.07㎡) |
| | 8 月 | 耶馬溪出張所 広報救急車更新 |
| 平成 7 年 | 9 月 | 本部・署機構改革 本部2係、署5係を置く |
| | 9 月 | 本署 救急車更新 |
| 平成 8 年 | 2 月 | 本署 消防1号車更新(水槽付消防ポンプ自動車) |
| 平成 9 年 | 3 月 | 本部 査察車更新(日本消防協会より寄贈) |
| | 6 月 1 日 | 大分県防災ヘリコプター応援協定締結 |
| 平成 10 年 | 2 月 | 本署 高規格救急車配備 |
| | 4 月 | 本署 高規格救急車運用開始 |
| 平成 11 年 | 1 月 | 本署 通信指令室増築(175.16㎡) |
| 平成 12 年 | 3 月 23 日 | 本署 新通信指令室完成(運用開始) |
| | 11 月 | 耶馬溪出張所 消防2号車(ポンプ車)更新(日本損害保険協会より寄贈) |
| 平成 13 年 | 1 月 | 本部 査察車更新 |
| 平成 14 年 | 1 月 | 本署 人員資器材搬送車配備 |
| | 4 月 1 日 | 本部・本署・耶馬溪出張所機構改革 (本部3係、本署5係、耶馬溪出張所を分署と改称し、3係を置く) |
| | 11 月 | 耶馬溪分署 高規格救急車配備 |
| 平成 16 年 | 2 月 | 耶馬溪分署 消防1号車更新(水槽付消防ポンプ自動車) |

| | |
|---|---|
| 平成 16 年 3 月 | 本署 救急車 (2B)更新 |
| 平成 17 年 2 月 28 日 3 月 1 日 3 月 1 日 | 中津下毛広域市町村圏事務組合解散 中津市消防本部・消防署発足 (市町村合併にともない一部事務体制の変更) 大分海上保安部と中津市消防本部との船舶火災に関する業務協定締結 |
| 平成 18 年 3 月 7 月 6 日 | 本署 救助工作車 II 型更新 大分県内におけるドクターヘリの運航に係る協定締結 |
| 平成 19 年 10 月 12~ 13 日 12 月 1 日 | 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練 (中津市開催) 福岡県田川地区消防組合、中津市消防相互応援協定締結 |
| 平成 20 年 2 月 28 日 4 月 1 日 6 月 10 日 7 月 1 日 7 月 1 日 10 月 1 日 | 本署 高規格救急車更新 本部・本署機構改革 3 課 12 係を置く 中津市、上毛町消防相互応援協定締結 中津市、吉富町消防相互応援協定締結 京築広域市町村圏事務組合、中津市消防相互応援協定締結 日勤救急隊 発足 |
| 平成 21 年 4 月 21 日 8 月 26 日 | 山国町小屋川地区の山林火災 (10.1ha 焼損) 本署 消防 2 号車 (ポンプ車) 更新 |
| 平成 22 年 2 月 5 日 3 月 30 日 | 耶馬溪分署 救急車更新 (高規格救急車) 本署 指揮車更新 |
| 平成 23 年 2 月 25 日 3 月 14~ 23 日 4 月 18 日 8 月 27 日 | 本署 化学車更新 (災害対応特殊化学ポンプ自動車 II 型) 東日本大震災被災地へ緊急消防援助隊職員派遣 (救助隊 1 隊・5 名) 岩手県釜石市鶴住居町 耶馬溪町大字深耶馬 林野火災 焼失面積:597.2a 新博多町の建物火災 (店舗、住宅 計 5 棟全半焼) |
| 平成 24 年 1 月 31 日 3 月 30 日 4 月 23 日 7 月 3・14 日 | 本署 消防 3 号車 (ポンプ車 CD-I) 更新 大分県常備消防相互応援協定締結 山国町守実建物火災 (店舗、住宅 計 13 棟を焼損) 九州北部豪雨 (行方不明者 1 名、全壊 10 戸、大規模半壊 5 戸、半壊 66 戸、床上浸水 304 戸、床下浸水 92 戸) |
| 平成 25 年 2 月 6 日 3 月 22 日 3 月 22 日 4 月 1 日 5 月 27 日 9 月 26 日 11 月 20 日 | 資機材搬送車 (総務省消防庁より無償貸与) 本署 消防 1 号車更新 (水槽付消防ポンプ自動車 II 型) 耶馬溪分署 消防 2 号車更新 (ポンプ車) 職員条例定数の改正 (100 名体制から 120 名体制へ) 出張所の敷地取得 (4,862㎡) 耶馬溪分署 広報車更新 本署 救急 2 号車更新 (高規格救急車) |
| 平成 26 年 3 月 3 日 | 消防救急デジタル無線運用開始 |
| 平成 27 年 2 月 6 日 3 月 1 日 3 月 9 日 3 月 9 日 3 月 10 日 9 月 9 日 | 東部出張所救急 1 号車購入 (高規格救急車) 高速自動車道等における消防相互応援協定締結 (大分県下 10 消防本部) 消防署東部出張所竣工式 高機能消防指令システム運用開始式 消防署東部出張所開設 (運用開始) 本部 査察 2 号車購入 (軽自動車) |

| | |
|--|--|
| 平成 27 年 10 月 30 日 11 月 10 日 | 本部 査察1号車更新(軽自動車) 本署 はしご車更新(先端屈折式35mはしご付消防自動車) 12月7日(運用開始) |
| 平成 28 年 3 月 24 日 4 月 16~ 17日 4 月 28 日 10 月 31 日 | 東部出張所 太陽光発電設備等設置 太陽光発電システム 10.6kwh リチウムイオン蓄電池 19.2kwh 熊本地震被災地へ緊急消防援助隊職員派遣(支援隊1隊・2名、救急隊1隊・3名) 耶馬溪分署 駐車場拡張整備(681㎡) (株)エンルートよりドローン(Zion PG560)一式寄贈 |
| 平成 29 年 2 月 28 日 6 月 4~ 5日 7 月 5~ 6日 9 月 29 日 12 月 1 日 | 東部出張所救助対応型水槽付ポンプ自動車購入 3月11日(運用開始) 中津市耶馬溪町大字中畑 中畑山林火災 焼損面積:110a 九州北部豪雨 緊急消防援助隊受援 (北九州市消防局 指揮支援隊、宮崎県隊 現地被害調査) 本署 救急1号車更新(高規格救急車) 10月2日(運用開始) 本署 多目的車更新 12月1日(運用開始) |
| 平成 30 年 3 月 17~ 20日 4 月 11~ 23日 4 月 25~ 31日 10 月 26 日 | 中津市三光下林 平山産業火災 堆積物(廃材等)焼損面積:779.58㎡ 中津市耶馬溪町金吉地区山地崩壊災害(住家4戸全壊、死者6名) 緊急消防援助隊受援(福岡県隊、熊本県隊、北九州市消防局) 平成30年7月豪雨被災地(広島県)へ緊急消防援助隊職員派遣 (消火隊、支援隊延べ11名) 耶馬溪分署 救急車更新(高規格救急車) 10月28日(運用開始) |
| 平成 31 年 2 月 22 日 | 本署 人員搬送車更新 2月28日(運用開始) |
| 令和 2 年 1 月 16 日 3 月 24 日 5 月 1 日 12 月 10 日 | 119番通報における多言語三者通訳(運用開始) 対応言語:18言語 東部出張所 災害支援車更新 3月26日(運用開始) Net 119緊急通報システム(運用開始) 耶馬溪分署 水槽付ポンプ自動車更新(II型) 12月13日(運用開始) |
| 令和 3 年 2 月 16 日 3 月 10 日 12 月 15 日 | 消防救急デジタル無線システム中間更新 本署 救助工作車更新(II型) 3月22日(運用開始) (株)SamiSamiラボより水中ドローン(QYSEA FIFISH V6)一式寄贈 |
| 令和 4 年 2 月 1 日 2 月 18 日 | 消防通信指令システム中間更新 2月1日(切替運用開始) 本署 救急2号車更新(高規格救急車) 2月20日(運用開始) |
| 令和 5 年 2 月 8 日 2 月 22 日 3 月 1 日 3 月 13 日 | 本部 防災活動車配備 日本消防協会 東部出張所 救急1号車更新(高規格救急車) 2月23日(運用開始) 本署 はしご車オーバーホール完了 令和4年度 総務省消防庁 高機能エアータント配備(東部出張所に配置) |
| 令和 6 年 2 月 27 日 3 月 14 日 4 月 1 日 10 月 1 日 | 本部救助資機材・小型ポンプ付多機能車 総務省消防庁 無償貸与 サイレン吹鳴装置改修工事完了 職員条例定数の改正(120名体制から130名体制へ) おおいた消防指令センター共同運用開始(消防指令センターへ職員派遣 3名) |
| 令和 7 年 4 月 1 日 | 本部機構改革 6課(警防課新設、消防課を予防課に課称変更)7係を置く |

4. 歴代消防長

| 歴代 | 氏名 | 就任年月日 | 退任年月日 |
|------|--------|------------------|------------------|
| 初代 | 山本 貞夫 | 昭和 50 年 4 月 1 日 | 昭和 51 年 3 月 31 日 |
| 二代 | 森山 晴美 | 昭和 51 年 4 月 1 日 | 昭和 54 年 3 月 31 日 |
| 三代 | 松室 伊平 | 昭和 54 年 4 月 1 日 | 昭和 60 年 3 月 31 日 |
| 四代 | 大谷 武美 | 昭和 60 年 4 月 1 日 | 昭和 62 年 3 月 31 日 |
| 五代 | 和田 博邦 | 昭和 62 年 4 月 1 日 | 平成 元年 3 月 31 日 |
| 六代 | 笹原 政信 | 平成 元年 4 月 1 日 | 平成 3 年 3 月 31 日 |
| 七代 | 上山 重信 | 平成 3 年 4 月 1 日 | 平成 3 年 12 月 31 日 |
| 八代 | 田中 日出賜 | 平成 4 年 1 月 1 日 | 平成 8 年 3 月 31 日 |
| 九代 | 友田 勝海 | 平成 8 年 4 月 1 日 | 平成 10 年 3 月 31 日 |
| 十代 | 園 憲一 | 平成 10 年 4 月 1 日 | 平成 16 年 3 月 31 日 |
| 十一代 | 松本 洋一 | 平成 16 年 4 月 1 日 | 平成 19 年 3 月 31 日 |
| 十二代 | 土田 憲一 | 平成 19 年 4 月 1 日 | 平成 22 年 3 月 31 日 |
| 十三代 | 松 垣 成 | 平成 22 年 4 月 1 日 | 平成 24 年 3 月 31 日 |
| 十四代 | 高倉 正博 | 平成 24 年 4 月 1 日 | 平成 26 年 3 月 31 日 |
| 十五代 | 相良 卓紀 | 平成 26 年 4 月 1 日 | 平成 27 年 3 月 11 日 |
| 十六代 | 上原 茂秀 | 平成 27 年 3 月 12 日 | 平成 29 年 3 月 31 日 |
| 十七代 | 矢野 朝仁 | 平成 29 年 4 月 1 日 | 平成 31 年 3 月 31 日 |
| 十八代 | 磯野 宏実 | 平成 31 年 4 月 1 日 | 令和 2 年 3 月 31 日 |
| 十九代 | 恵良 嘉文 | 令和 2 年 4 月 1 日 | 令和 4 年 3 月 31 日 |
| 二十代 | 佐藤 哲 | 令和 4 年 4 月 1 日 | 令和 5 年 3 月 31 日 |
| 二十一代 | 泉 武晴 | 令和 5 年 4 月 1 日 | 令和 6 年 3 月 31 日 |
| 二十二代 | 松 垣 勇 | 令和 6 年 4 月 1 日 | 令和 7 年 3 月 31 日 |
| 二十三代 | 栗山 昌也 | 令和 7 年 4 月 1 日 | 現在に至る |